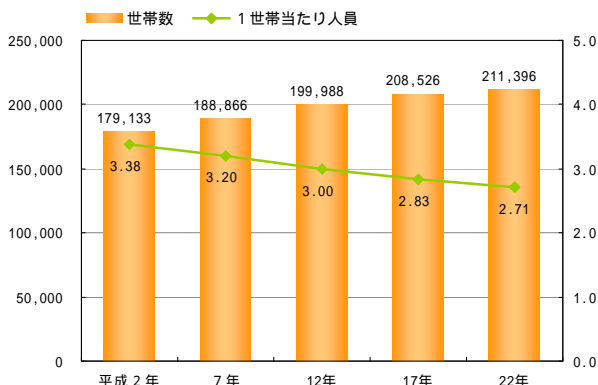


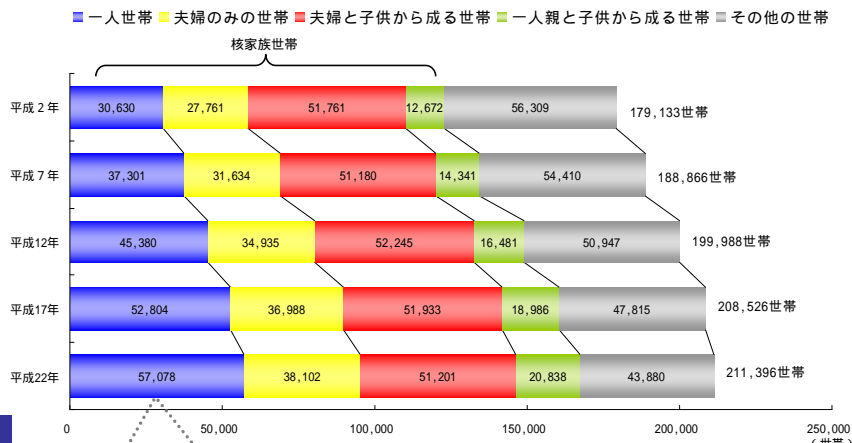
# 平成 22 年国勢調査でみる鳥取県

## ～ 世帯構成の変化 ～

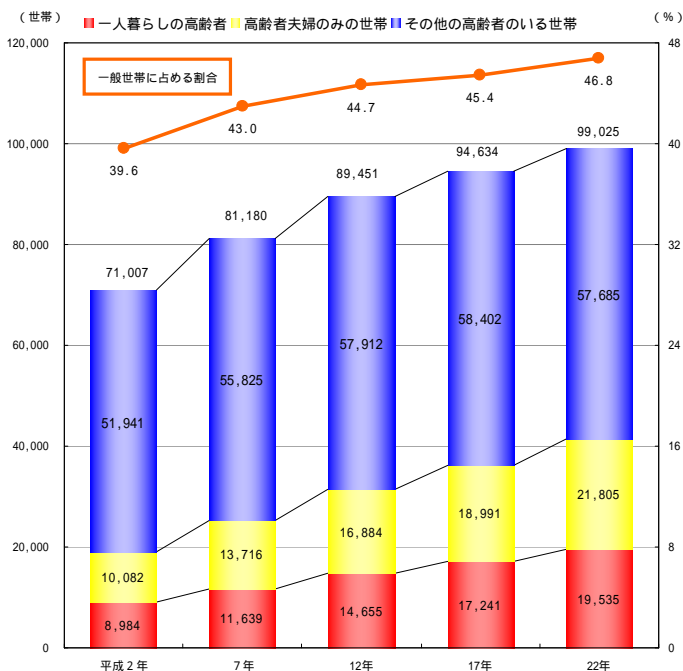
### 世帯数及び世帯人員の推移



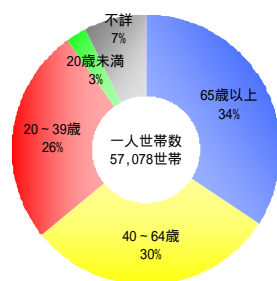
### 世帯構成の変化



### 一般世帯に占める高齢者（65歳以上）のいる世帯



### 【一人世帯の年齢別構成】



鳥取県の平成 22 年の一般世帯数は 211,396 世帯となり、平成 17 年と同様、20 万世帯を超えました。一般世帯数は 1.4% の増加となり、世帯別では一人親と子供から成る世帯の 9.8%、一人世帯の 8.1% が高い増加率となりました。一人世帯あたり人員は減少を続けており、平成 22 年は 2.71 人となりました。

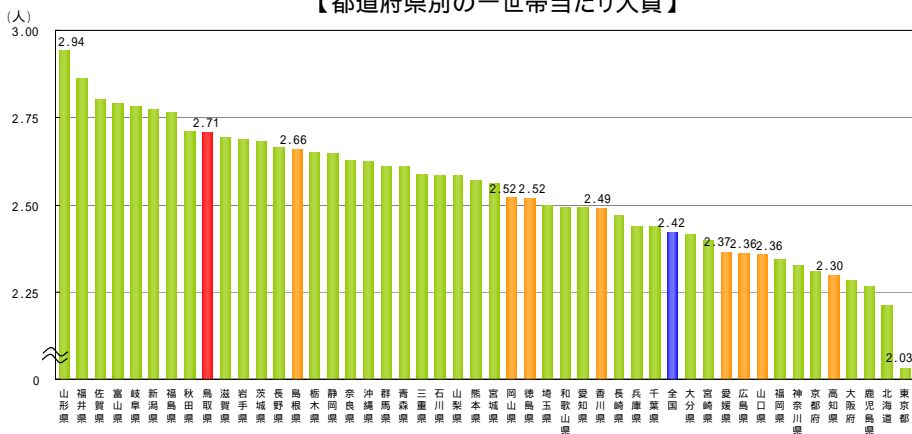
高齢者（65歳以上）のいる世帯は平成 22 年で 99,025 世帯となりました。一人暮らしの高齢者世帯と高齢者夫婦のみの世帯が増加となりました。一般世帯に占める割合は 46.8% と約半数を占める割合となっています。その中でも、一人暮らしの高齢者、高齢者夫婦のみの世帯が増加しています。



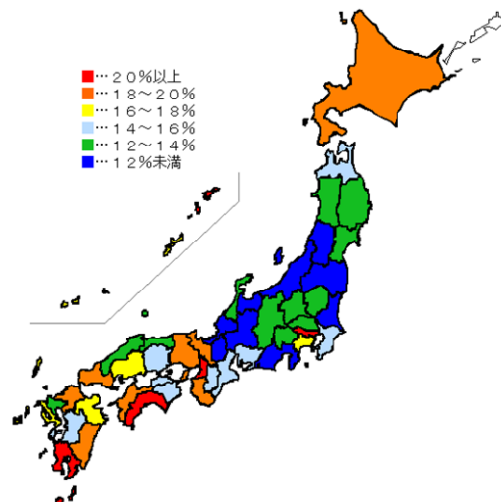
国勢調査マスコットキャラクター

### 都道府県別でみる一世帯あたり人員と一人暮らしの高齢者（65歳以上）

#### 【都道府県別の一世帯あたり人員】



#### 【65歳以上人口に占める「一人暮らしの高齢者」の割合】



一世帯あたり人員を都道府県別に比較すると、最も多いのが山形県の 2.94 人で、最も少ないのが東京都の 2.03 人となりました。鳥取県の 2.71 人は全国 9 位で、中四国では最も上位に位置しています。一人暮らしの高齢者の割合をみると、東京都が 23.6% と最も高く、次いで鹿児島県（22.8%）、大阪府（22.1%）の順となっています。一方、最も低いのは山形県の 9.2% で、次いで新潟県（10.5%）、福井県（10.6%）と東北地方、中部地方で低い傾向があります。鳥取県は全国で 3 番目の 12.7% で中四国で最も低い値となっています。